

虹技は5日、JICA（国際協力機構）の研修で来日した東アフリカの内陸国・マラウイの医療関係者3人を対象に工場見学会を開催した。同社はNPO法人と提携し、現地で太陽の光を1点に集めて湯沸かしや調理できるソーラーボイラーの普及を支援している。

工場見学会では、冒頭で山本幹雄社長があいさつした後、姫路東工場に移動し、大型鋳物や送風機などの製造工程を見学した。参加者は、現地の国立病院の副院長や看護師、スタッフで、ソーラーボイラーを使って医療器具の煮沸消毒や調理などを行っている。診療スタッフのジェームズ・ピリ氏は、「現地の暮らしが

## 虹技、ソーラーボイラーで支援

# JICA研修生向け工場見学会

## アフリカの電力不足 解決の一助に



マラウイの医療関係者と

今以上に良くなることを望むと同時に、これから皆さんのサポートをお願いしたい」と話した。

マラウイは、慢性的な電力不足で料理やお湯を沸かすために薪を使用し

ており、近年は人口増加に伴って薪不足が深刻になってきている。地域によっては家から数時間離れた

場所まで薪を拾いに行く必要がある、井戸水を煮沸せずに飲んで下痢するケースや体力のない子供たちは命を落とすことがある。

同社は、JICA主催の草の根技術協力事業の1つ「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業」

に取り組みNPO法人・Colorbath（カラーバス、本部山口県周南市、吉川雄介代表理事）と提携し、ソーラーボイラーの普及活動を展開しており、社員研修の一環でこれまでに3人を派遣するなど関係を深めてきた。「国際貢献や社員教育の両面から、今後とも社員の派遣を継続したい」（山本社長）。

ソーラーボイラーは、高反射のアルミ板を曲線状に配置して太陽光を1点に集め、熱に変える装置で、揚げ物もできる。エソジニアでシエラテクニクス社長の福寿喜寿郎氏が開発し、交友関係があった虹技が工場の一角を提供し、技術開発や製造をバックアップしている。